

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1991900091	
法人名	一般社団法人 だんだん会	
事業所名	グループホームわいわい白州	
所在地	山梨県北杜市白州町白須1023	
自己評価作成日	令和3年10月25日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和4年1月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①開放型の家。日中はいつも鍵を開けておく ②計画的な献立のない”その日の気分の食事” ③よくしゃべり、よく笑い、よく歩き、よく働き、よく眠る ④「お客様型」ではなく、「自分たちのことは自分たちで」という支援型 ⑤地域住民のまなさんとのつながりを大切にする ⑥経営中心(営利目的)の運営ではなく、「専門家による高い質のケア」を追求
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○山梨県北杜市八ヶ岳南麓の起伏に富んだ高台に、認知症対応型共同生活介護事業所「わいわい白州」は立地しています。事業所は2ユニット(摩利支天、尾白)で、ワイナリーの葡萄畑に囲まれ、木々の温もりに包まれた木造2階建てで、利用者にとっての憩い家として内装や設備も配慮工夫がされています。 ○「自分らしく生きる人生を」は、創設者(理事長)の信念として運営理念に反映され、利用者一人ひとりの自己選択・決定を強く意識した事業運営が展開され、画一的な日課のない生活や献立メニューにこだわらない食生活、開放型の家等、利用者一人ひとりのエンパワーメント、ストレングスを高め・気づく先駆的な介護支援に取り組んでいます。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20) (※窓越しの面会など距離をとった交流)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている(参考項目:49)(※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームわいわい白州**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(尾白)	ユニット名(摩利支天)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を掲示し定期ミーティングや日頃の支援を通じて理念の確認をしながら実践につなげている。	運営理念を掲示し、管理者と職員が参加する月例ミーティングにおいて理念に則った支援を実践するよう話し合いを行なっている。	○法人の運営理念として、1)尊厳の保持、2)介護ではなく生活支援、3)豊かな共同生活の場、4)誰でもが利用しやすい配慮、5)グループホームを地域住民に開放、6)人生の最期の段階まで暮らせるような運営、を掲げ、地域密着型共同生活介護事業の使命・目的、創設者(理事長)の思い信念を読み取ることができ、毎月2回夕方19:30~1時間程全体勉強会を開催し、全職員の周知共有に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で出かけることはしなかったがテラスなどでヘアカットを行い交流をはかり情報交換を行っている。	町内会に加盟しているが、今年度はコロナ禍により文化祭や防災行事など地域の行事は中止又は不参加となった。人が集まる交流は現在止まっているが、地元小学校の生徒が奉仕活動の一環として行なっているリサイクル品(アルミ缶)の回収に協力している。	○地元町内会に加入し、町内会行事の文化祭やイベントに利用者・職員が参加し、地域との交流に取り組んでいます。コロナ禍で、地域行事が中止されている中でも、地元白州小学校のアルミ缶回収に協力するために、職員・利用者がアルミ缶を集めるお手伝いをしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で実施ができなかった。	例年は毎週火曜日にホーム内の多目的室にて認知症カフェを開催し、認知症の方やそのご家族、また認知症の予防に取り組んでいる方々の相談や交流の場となっているが、今年度はコロナ禍により行われていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームに対するご意見やご要望、また地域の行事など情報を提供して頂くなど情報交流を行っている。	例年はご町内の方、地域包括、ご家族、ご入居者等に参加していただき、様々なご意見をいただき、サービス向上に活用しているが、今年度はコロナ禍により運営推進会議は殆ど見合わせる事が多く回数の実施となる。	○コロナ禍でも、本年度は11月と12月に運営推進会議を開催し、事業所としてのコロナ対策を提示して、委員への周知に努めていました。開催できなかった月は、ヒヤリハット事例等の報告資料を含めた会議資料を各委員に配布し、事業所の課題等についての周知共有に努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から連絡を密に取るように心がけ、協力関係を築けるように努力している。	電話や文書により市町村担当者と連絡を密にとり、感染症対策に万全を期するよう協力関係を築いている。	○行政の担当者は、運営推進会議のメンバーで2カ月に1回は来所して、情報の周知共有を図っています。本年度は特にコロナ対策で管理者が頻繁に相談等の密な連絡をしたとのことでした。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回のユニット長会議にて身体拘束についての話し合いの場を設けその内容をミーティングにて職員が周知している。	身体拘束につながる課題がないか、また身体拘束をすることでどのような弊害が起きるか正しく認識するために、リスクマネジメント委員会を毎月開催し、その内容をミーティングにて職員に周知している。	○マニュアルが整備され、毎月1回委員会(リスクマネジメント委員会)を開催し、各ユニット長や理事長も出席して、拘束をしないケアの実践についての事例研究が行われています。また、その結果をミーティングやスタッフ会議で報告し、全職員の周知徹底に努めています。玄関等の施錠も基準にもとづいて夜間帯のみの施錠になっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	関わりが虐待とならないように振り返りの場を持つことが大切。スピーチロック等の勉強会を開き不適切ケアの防止に努めている。	虐待につながる言動が職員により行なわれていないかリスクマネジメント委員会にて毎月確認し、また日頃から不適切ケアについても早期発見に努め注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	様々な経歴の方々を通して、実際に使っている制度や使う可能性がある制度について学ぶ機会を持つ。	成年後見人制度に関しては、研修等で学ぶ機会を設けている。成年後見制度については、必要な際に制度のご案内・説明などをミーティング等において実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前より十分な説明を行いご本人、ご家族に理解して頂いている。	入居前の面談から徹底した自立支援を行なう場所であること。それによる可能性とリスクがあることをお伝えする時間を持ち、ご本人、ご家族に納得いただくようにしている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームわいわい白州**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(尾白)	ユニット名(摩利支天)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族懇親会を開き運営に関する意見交換の場を持っている。今年度はコロナで回数を減らして実施している。	例年は介護支援課、地域包括、民生委員の方々が参加する運営推進会議、及び家族懇談会など、運営に対する外部発信及び意見交換の場を持っているが、今年度はコロナ禍により電話等により対応している。	○家族の意見、要望については、主に家族懇談会や運営推進会議で把握し、運営に反映できるように努めています。本年度コロナ禍ではありますが、12月に開催し、事業所のコロナ対応について説明し、理解を得たとの管理者のコメントでした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月例ミーティングや個別面接の場を設けて意見交換を行っている。	月例ミーティングの中で職員の意見や提案を聞き、サービス提供に反映させている。 必要に応じて個別面談を行ない、職員ひとりひとりの意見を聞き反映するよう努めている。	○理事長による職員との個別面談を年1回実施して、職員一人ひとりの意見や困りごとを把握し、結果や改善課題については、理事長から各ユニットの管理者に報告があり、管理者がさらに個別面談を行い運営に反映させる仕組みが定着しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれの事情に耳を傾け、各自が向上心を持って働ける様に環境や条件の整備に努めている。	スタッフ個々の事情を踏まえ、平等な職場環境づくりに取り組んでいる。スタッフが有給休暇や希望休を効果的に取得できるよう勤務シフトに配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人ないでの講師を依頼して研修を行ったり、内部研修への参加機会を持ち、職員の識能向上に努めている。	法人内で講師を依頼して研修を行ったりして職員の識能向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北杜市における連絡会に参加して少しずつ交流の機会を作っている。(コロナで回数減少)	例年は北杜市の介護支援課が主催する地域ケア会議及び事例検討会にスタッフが参加してサービスの質向上に努めているが、今年度はコロナ禍により回数は減少している。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の困りごとや要望に耳を傾けながらご本人やご家族からお話を聞き安心できる環境作りに努めている。	本人の能力、意向、家族との関係、協力体制など、実現可能なことを探り、なじむ場と安心できる環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っている事や要望に耳を傾けながら認知症ケアの専門職として対応に努めている。	ご本人の状況をみながらあくまで認知症ケアの専門職として対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療職を含めチームで見極めを行い適切な対応を検討している。	医療職含めチームで見極めを行ない、適切な対応を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と共に過ごし敬意を支え合い、それらを把握し寄り添い関係を築いていくような支援を心がけている。	ご本人にとって大切な事、思い入れのあること、こだわりのあること、それらをしっかり把握した上で支援を行なう。その方の世界をしっかりと知ることから始め、寄り添っていけるよう心がけている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームわいわい白州

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(尾白)	ユニット名(摩利支天)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	ご家族や本人の意思や希望を大切に、支えている。 また、お誕生日にはご家族の希望も取り入れて開 催する。	ユニットのご本人との関わりや個々にあるご家族様の 思いを大切に。誕生日や旅行行事など一緒に 過ごせる時間作りのお手伝いをさせて頂き、ご家族様 とも信頼関係を築いている。今年度はコロナ禍により 参加を見合わせた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	移住者が半数を占めており、どの様な支援が適切な のか悩みながら支援にあたっている。	例年はご友人やご家族が来訪されたときは歓迎し、い つでも気軽にお越しいただけるようアットホームな雰囲気 づくりを心がけている。また、ご本人の思い出の場 所や馴染みの店などに出かけることで関係が継続で けるよう努めているが、今年度は越越し面会や電話連 絡の支援を行なっている。	○特に尾白ユニットの利用者は、半数が東京や北海 道、富山県等からの移住者で馴染みの場所を訪ねるこ とは困難との管理者のコメントでした。行くことが可能な 利用者は、馴染みの神社や道の駅、お店等に出かけて いるとのことです。コロナ禍での家族や知人との面会 は、ベランダや居室の窓越しで実施している様子が「だ んだん便り」の写真に掲載されていました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	利用者同士が主役になる場を作りつつ、お互いが認 め合う関係を築いていけるよう努めている。	日々の生活の様子の中から利用者同士の関係性を 観察し、それぞれの方が生活の主体として尊重され、 支え合えるよう、職員が適切な距離感をもって支援す る。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必ずしもここが終の棲家ではないことを説明しており、 自宅に引き取ること、他の施設に移ることも可能であ ることを伝え体制を整えている。	必ずしもここが終の棲家ではないことを説明しており、 自宅に引き取ることや、ほかの施設に移ることも可能 であること伝えて体制を整えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日々の関わりの中で、1人1人の思いに寄り添い、ご本 人がやりたいことが出来たり行きたい所に行ける様、 支援をする様に努めている。	その方にとって過ごしやすい環境とはどのような事な のか、生活歴などからの把握に加え、日々関わる中で のご本人の反応などとあわせて観察し、ご本人がやり たいことができるよう、行きたいところに行けるよう支 援するよう努めている。	○利用者や家族の「～をしたい」を支援目標として掲 げ、利用者一人ひとりのニーズの実現を大事にした支 援に取り組んでいるとの管理者のコメントがありました。 利用者は、両ユニットともに現在は比較的コミュニケー ションを図れるので、日常生活の中で意向を把握でき ているが、今後は利用者自治会等も検討していきたいと の管理者の話がありました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	入居時にご家族に記入して頂き把握に努めている。	今までの生活の場や大切に思われている場所や物な どの情報を入居前にご記入いただき把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で細やかな観察をし、有する能力に 応じて、それが発揮出来るような支援に努めている。	日常生活の中で観察を行ない、心身状態、現状を把 握してケアプランへ反映させ、職員全員で情報を共有 するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	定例ミーティング等で話し合い、内容を検討し介護計 画に反映している。	ご本人の生活を支える上で必要な支援について月例 ミーティング等で話し合い、具体的な内容や頻度を介 護計画に反映し、医療や家族の協力、地域資源など 地域全体のチームとして支援に取り組んでいる。	○介護計画は、ケアマネージャーが所定のアセスメント シートにより、介護、医療スタッフ、家族等からの情報を 基に計画案を策定、定例のスタッフミーティングで提案 協議し、本人・家族の同意を得て、適切に策定されてい ます。モニタリングも3か月ごとに行う仕組みになって います。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は電子入力と筆記を活用している。それらの 記録の内容は支援の見直しに役立っている。(連絡 ノート)	介護記録は電子入力と筆記を並行活用し、その時の 様子や発言内容など細かい内容を記載し、勤務者間 の申し送りの際は記録及び口頭により情報共有してい る。それらの記録の内容は支援の見直し等に活用してい る。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームわいわい白州**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(尾白)	ユニット名(摩利支天)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	リハビリについては、訪問リハビリとの連携をとっている。	医療面については訪問看護事業所との連携により、すぐに対応可能なものはすぐに対応している。訪問リハビリのニーズに応じて訪問介護事業所からPTが訪問して機能訓練等を行なっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ過で今年は参加を見合わせた。	例年は地域の文化祭やお祭りなどの行事には積極的に参加している。推進会議などでは地域の方に参加いただき、地域行事等の情報を共有し、ご入居者がそれらに参加できるよう支援しているが、今年度はコロナ禍により参加を見合わせた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本はこれまでの主治医を推奨し、医療の選択が出来ないようなら、こちらで紹介出来るような体制を取っている。	基本はこれまでの主治医を推奨し、医療の選択にお困りの場合にはこちらでご紹介できる体制をとっている。	○主治医については、これまでのかかりつけ医と事業所の協力医療機関(内科、歯科)から、利用者・家族が選択するようになっていきます。一人の利用者以外は、ほとんどの利用者・家族は協力医療機関を選択しているようです。囁託医が定期的に往診もして、利用者一人ひとりの健康管理を職員と共有しているとの管理者コメントがありました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護や看護職の職員と連携し、受診や往診、その場での医療処置に対応している。	訪問看護や看護職の職員と連携し、受診や往診、その場での医療処置に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	情報交換や相談に努め、病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、医療機関へ情報提供を行っている。と連絡をとり相談するよう努めている。また、退院に向けご家族様とも連携をとり、退院カンファレンスが開催される際には参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時様やご家族様の意向にそった体制づくりをしている。	終末期の在り方について契約時に書面で説明するとともに、実際に体調変化があった場合には様々な可能性について提示できるよう体制をとっている。	○重度化や終末期への対応方針がマニュアルとして整備され、協力医療機関の医師、本人・家族、事業所の看護師や担当職員が随時話し合う場を設け、適切に実施しています。これまで、特に終末期ケアは、ほとんどの利用者を事業所で看取ったとの管理者の話がありました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月例ミーティングにて緊急時の対応について確認し、緊急時対応マニュアルを作成し適切な対応が出来る様になっている。また、防災訓練時消火訓練や消防隊員からお話を伺い研修の場を設け勉強した。	月例ミーティングにて緊急時の対応について随時確認している。緊急対応マニュアルを作成し適切な対応ができるようにしている。また、防災訓練時消火訓練や消防隊員からお話を伺い研修の場を設け勉強した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(日勤帯、夜間帯を想定した)防災訓練を行っている。地域との協力体制は築いている。	消防計画及びマニュアルを作成し、それらに沿って行なっている。消防訓練を定期的に行なうなかで、心肺蘇生法や搬送法の演練のほか、地震や水害など火災以外の災害発生時の心構えについてもスタッフに周知している。	○消防計画にもとづいて、消防署の立ち合いのもとで避難訓練等を適切に実施しています。また、防災に関する勉強会や救急講習会を定期的実施しています。防災設備も法令に基づいて非常災害備蓄品等も整備されています。事業所は、川や山には近いが比較的高台にあり、ハザードマップ等でも安全な場所に立地しています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや態度で支援をしている。	ご入居者一人ひとりの人格を尊重し、丁寧かつ親しみを込めた言葉かけや態度で支援している。	○プライバシー保護規程や理念にもとづいて、プライバシー保護に関する研修会を定期的開催し、職員の周知共有を図って、日常の実践に活かすよう取り組んでいます。両ユニットとも男性スタッフが配置されているため、異性介護のリスクが懸念されるとの管理者の話がありました。	

## 自己評価および外部評価結果

## 事業所名

## グループホームわいわい白州

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(尾白)	ユニット名(摩利支天)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人がやりたい事や食べたい物が自己決定出来る様にチームで支援していく。	ご本人がやりたい事や行きたい場所、食べたい物など、ご自身で決定できるよう支援し、そのことを実現できるようチームとして計画性をもって行動している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人が希望される生活が出来る様な支援をしている。	ご入居者それぞれのペースで生活ができるよう、職員同士が常に連携をとりながら円滑に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人のお話を聞きながら意見を尊重して服装選びができる支援を行っている。コロナの為訪問美容師さんによるヘアカットを行っている。	ご本人の個性と意思を尊重し、ご本人が好きな服装やヘアスタイル、装飾などが楽しめるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー会議をその都度行い入居者さん同士で話し合っており、出来ない事は支援させていただきます。	食事時間やメニューは職員が事前に決めるのではなく、何を食べたいかはご入居者が主体で話し合い、献立が決定してから必要な食材を調達したり、出前をとったりなど食事の過程すべてを楽しめるよう支援している。	献立メニューは、メニュー会議で利用者が話し合っている仕組みが定着しています。また、食事の準備についても、食材の買い出しや野菜の皮むき、包丁で切る作業、炒めたり、混ぜたり等の実際の調理作業もできる利用者が職員と一緒にしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量等を把握し脱水症状等を留意している。	ご入居者の食事摂取量及び水分摂取量を把握し記録に残している。体調不良時や食事が進まないとき等は栄養バランスや本人の好き嫌いなどを考えて状態に合わせた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者に合わせたケアを行っている。	その方に合わせた口腔ケアを行っている。口腔内に異常がみられる場合は訪問歯科等の医療機関と連携して治療や本人に適した口腔ケア方法について相談し、実践している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者に合わせたケアを行っている。	排泄の失敗がある場合は、その原因を分析してトイレでの排泄が円滑に行なえるよう支援する。福祉用具事業所と連携して本人にあった排泄用具の選定や変更を行なっている。	○排せつの習慣や本人のニーズを尊重して、排せつの自立支援に取り組んでいます。共用トイレに移動することが困難な利用者には、トイレ付きの居室を提供する配慮もしています。現在、両ユニットで3名のオムツ使用者がいるとの管理者コメントでした。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事(乳製品、食物繊維の多い食品など)や補助食品などでなるべく薬を使わないように取り組んでいる。体操や散歩等、体を動かす様な支援を行っている。	ご入居者が食べたい物を美味しく食べられるためにもスムーズな排泄は重要であるため、食べたい物に加えて、乳製品や食物繊維の多い食品などを一品加えるとともに屋内の移動や外出などで体を動かすよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望を尊重した支援を行っている。	職員の都合で入浴時間や場所を決めるのではなく、入浴剤の使用や湯温なども含めてご本人の希望を尊重した入浴支援を行なう。	○入浴日時は、特に定めてなく、利用者の希望により実施しています。現在は3日に1回、朝から夕方までに入浴する利用者が多いようです。職員は1対1で対応する体制とのことです。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ち良く眠れる様に環境作りを努めている。	日中と夜間の様子を把握した上でその方の体調を見ながら、疲労感が見られる時は無理に起こさず休んでいただくようにしている。不眠時には、温かい飲み物や甘いもの等を提供して安心感を持って頂けるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームわいわい白州

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(尾白)	ユニット名(摩利支天)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関する能力を見極めその方に合わせた対応を行う。ファイルを作成し情報共有をしている。	服薬に関する能力を個々に見きわめて、その方に合わせた服薬支援を行なう。職員が薬の内容等を把握できるよう、薬情報をファイル化して共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の嗜好や趣味を把握し希望に沿った支援を行っている。	ご入居者が受動的に日常生活や行事、外出を楽しむのではなく、それぞれの得意分野を活かして、企画会議に参加したり、物品を調達したりと、個々の役割をもって生活を楽めるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、ドライブや公園までの散歩など留まるがストレスが溜まらない様に配慮する様にした。	今年度はコロナ禍により、ドライブや散歩(部外者非接触)、医療機関への受診などに限定して支援している。	○コロナ禍でも、近隣の公園への散歩や通院時も活用しながらドライブを計画実施する等、利用者の外出支援活動に工夫配慮しています。また、習字や生け花、事業所内運動会等を実施し、コロナ禍での戸外活動制限の緩和支援にも積極的に取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍の為お金を使う機会がなかった。	今年度はコロナ禍により入居者の買い物同行は行わず、買い物代行によりお金を使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご要望に応じて手紙や電話のやり取りが出来る様に支援をしている。	ご要望に応じて手紙のやり取りが行えるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間を配慮し、居心地良く過ごせるように工夫している。	住んでいることを意識できるよう、「家」のような雰囲気、疲れた時には少し休めるような場所や、ご入居者同士がくつろいで交流できるような落ち着いた雰囲気になっている。また臭気の除去が円滑に行なえるよう、随所に設置された換気扇や換気窓を活用している。	○共有空間は、各ユニットごとに整備され、また、両ユニットの利用者が交流できる共有スペースも設置され、活用されています。共有スペースには、大小のソファが置かれ、利用者個々が自由にくつろげるようになっています。さらに、中庭にもテーブル、椅子があり、利用者の交流の場や食事会に活用されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルームで皆さんでくつろいだり、個々の部屋でくつろいだりと様々な過ごし方をしている。また、1人で寂しい思いをされている時にはリビングルームや気の合いそうな方のお部屋をご案内したり工夫をしている。	共用空間で他の入居者と過ごしたり、プライバシーが保たれる居室で自由に過ごせたり、また居室に人を招き入れたり、思い思いのスタイルで過ごすことができるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族が馴染みのある物を持参し、居心地良く過ごせるように工夫している。	入居前まで使用していた家具をなるべく用意していただいている。	○居室は、両ユニットとも和室と洋室の個室で、本人が持参した馴染みの品物が飾られ、本人や家族の希望を取り入れた居室空間になっています。特に居室内には小さいテーブルも置かれ、利用者が居室で他の利用者とお茶会交流を楽しむ配慮がなされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	有する能力に応じながら安全で出来るだけ自立した生活が送れる様に支援をしている。	その方に分かりやすい方法で伝わるよう、使用されている居室の把握や表記内容も個人に合わせた表現にしている。		